

# 保健体育科学学習指導案

学 級 2年123組 (男子22名女子14名計36名)

場 所 鹿 児 島 工 業 高 校 グ ラ ウ ン ド

授業者 教 諭 山 野 修

## 1 単元 球技 I (ソフトボール)

### 2 単元について

#### (1) 単元観

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立てて集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。中学校の球技「ベースボール型」の運動種目としてはソフトボールが取り上げられている。ソフトボールは、「打つ、投げる、捕る、走る」といった運動の基本的要素を組み合わせられて構成されている運動である。そして、身体やバットの操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合うゲームを通して、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことができる。

#### (2) 生徒の実態

本学級の生徒は、明るく素直な生徒が多く、授業にも意欲的に取り組む。小学校で「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームを通してルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習をしている。学級生徒数全36名のうち、31名(86.1%)は球技が好きと答えており、活動にも積極的である。ソフトボールや野球経験者も11名(男子7名、女子4名)おり、スムーズな学習が展開できる。

#### (3) 指導観

第1学年及び第2学年では、攻撃を重視して、易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を展開できるようにすることがのぞまれる。そのために基本的な技能習得を重要視し、個人やチームの技能習得から楽しさや喜びを味わい、個々の技能をレベルアップさせることに力を注いでいきたい。また、攻撃開始状況を設定したゲームを行うことで、走・攻・守の動きを理解させ、ソフトボール本来の魅力に触れさせ、自己やチームの課題解決に向けて粘り強く取り組む力を育成したい。そのほか、審判や記録係などの役割を与え、試合運営を行うことで、ルールを理解するだけでなく、自己の責任と役割を果たそうとする力を育てていきたい。

本単元の授業における教師側からの指示にあたっては、生徒が仲間のパフォーマンスに対して積極的にアドバイスしていけるように、教師の発問や助言を工夫し、充実した学習が展開できるようにしていきたい。

### 3 単元の目標

- (1) ソフトボールの特性に関心を持ち、積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 個やチームの課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。(思考・判断)
- (3) 基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開できる。(技能)
- (4) ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解できる。(知識・理解)

4 単元の指導計画及び評価規準（第2学年 全10時間）

指導計画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学習内容	<b>オリエンテーション</b> ソフトボールの特性、学習の進め方について知る。	<b>学習Ⅰ</b> 基本的な技能を身に付ける。 (キャッチボール、トスバッティング、ノック等) ・キャッチボールとフライ、ゴロの捕球 ・捕球と送球 ・ピッチング ・走塁 ・素振り ・バント練習 ・バッティングおよびフォーム 等			<b>学習Ⅱ</b> 攻撃を重視したチームの作戦を生かしたゲームを楽しむ。 ・場の応じた攻撃パターンを考えたゲーム ・安全面に配慮したゲームの行い方や進め方の学習 ・ゲーム運営の学習(審判や記録係)等			<b>学習Ⅲ</b> 簡易ゲーム (攻撃を意識した攻防)		
指導と評価の機会	関心・意欲・態度	ソフトボールの特性に関心をもち、楽しさや喜びを味わうことができるよう、共に仲間の学習を援助しながら、健康・安全に留意して積極的に取り組もうとしている。 ① ソフトボールの特性に触れ、仲間と積極的に関わりながら練習やゲームを楽しもうとしている。 ② <b>自分の責任や役割を理解し、積極的に参加して貢献しようとしている。</b> ③ 練習やゲームの場所の安全を確かめ、危険なプレーをしないなど、健康・安全に留意しようとする。								
	思考・判断	ソフトボールを豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 ① 仲間の指示や助言を生かし、チームや自分の能力に応じた課題を見付けている。 ② チームや自分の課題を解決するための適切な練習や方法などを選んだり、見付けたりしている。 ③ <b>技能の段階に応じて相手との攻防に合った作戦を立てて、実践しようとしている。</b>								
	技能	ソフトボールの特性に応じて、ゲームを展開するための基本的な技能や仲間と連携した動きを身に付けている。 ① 自分の能力や課題に応じてソフトボールの特性に応じた技能を身に付け、練習やゲームをすることができる。 ② 身に付けた個人的技能や集団的技能を高めたり、新たに身に付けた技能で、攻防を展開してゲームをすることができる。 ③ 技能の段階に応じて、相手との攻防に合った作戦でゲームや練習をすることができる。								
	知識・理解	ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。 ① ソフトボールの特性に応じた集団的技能や個人的技能の構造について、言ったり、書き出したりしている。 ② 技能を高めるための合理的な練習の仕方、練習計画の立て方について、具体例を挙げている。 ③ ルールや審判法について、言ったり、書き出したりしている。								
評価機会と方法	関・意・態	①	①				②			③
	思・判			①	① ②		③	③		
	技					① ②			③	③
	知・理	①		②			②		①	③
<b>評価方法（見取る方法・手段）</b>										
観察	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学習帳				○	○	○	○	○		○

## 5 到達目標問題

本単元を終了する段階で、以下のような到達目標問題に対して自らの考えや意見を表現できる生徒を育てることをねらいとしている。

到達目標問題	解答例	解答の根拠
相手チームに2点差でリードされた状態で、「1アウト、ランナー1・2塁」。このような状況で、どのような攻撃パターンがあるかを考え、解答しなさい。	(1) 四球または短打でランナーをためる。 (2) 送りバントや内野ゴロで、1・2塁それぞれのランナーを進塁させて、次の打者で勝負する。または外野フライからのタッチアップで進塁する。 (3) 2塁ランナーが得点につながるように長短打をねらう。	(1) 次の打者で勝負するため または大量得点につなげるため (2) 次の打者の短打もしくは相手のミスをさそい、得点を取りにいくため (3) 打者の長短打に期待し、1点もしくは2点を取りにいくため

## 6 本時の実際 (7/10)

### (1) 目標

ア 技能の段階に応じて相手との攻防や攻撃の場面に合った作戦を立てて、実践しようとしている。(思考・判断)

イ 自分の責任や役割を理解し、積極的に参加して貢献しようとしている。(関心・意欲・態度)

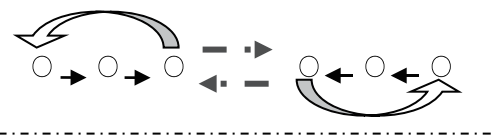
### (2) 授業設計の工夫

#### 学び合いを重視した授業の工夫 研究の視点3

ソフトボールの攻防の特性を踏まえ、各回の攻撃開始状況を指定することで、その後のプレーの状況をより具体的に予想することができる。あるいは、自チームがより有利になっていけるよう攻撃パターンを決定していくことができる。

仲間からのアドバイスや互いの意見交換は充実した学び合いの場となり、これまで身に付けた技能を生かす攻撃パターンを明確にした作戦や戦術を練っていくことができる。

### (3) 展開

過程	時間	学習形態	学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫
準備 健康観察 準備運動	10分	一斉  グループ	1 準備, 安全点検をする。 2 あいさつ・健康観察をする。 3 準備運動を行う。 4 学習活動Ⅰ(基本練習) ・ キャッチボール(6人1組) 	○ 場の安全を確認する。また、欠席者、見学者を把握し生徒一人一人の健康状態を観察する。 ○ 仲間と交流し、自他の体と心の状態に気付かせながら、準備運動と体づくり運動をさせる。 ○ 投球フォームや捕球の仕方を確認しながら、正確な送球、捕球ができるようにさせる。 ・ ゴロ・バウンド等の捕球から送球の動きを素早く行うことができるように、巡回しながら声かけする。
	3分	一斉	5 本時のねらいと学習の流れについて確認する。	○ 本時の学習のねらいや学習の流れを理解させ、学習の見通しをもたせる。

課題追求 〔 診断 ・ 思考 ・ 練習 ・ 定着 ・ 評価 〕	30分	グループ	<p>攻撃の作戦を練り、チームで得点しよう。</p> <p>6 学習活動Ⅱ（ゲーム）</p> <p>攻撃開始時の状況を設定し、攻撃側は作戦や戦術を練り、ゲームを行う。</p> <p><b>場面1</b> ノーアウト ランナー1・2塁</p> <p><b>場面2</b> ノーアウト ランナー1・3塁</p> <p>(1) 6人1グループの3組が攻撃・守備・審判を交互に行う。</p> <p>(2) 2人がランナーにつき、残り4人が打者となり、4人の攻撃で得点を競う。</p> <p>(3) スローピッチで送球する。</p> <p>(4) 盗塁はなしとする。ただし、ミスした場合は進塁できる。</p> <p>(5) 外野にアウトゾーンを設ける。アウトゾーンに直接ボールが入ると、打者はアウトとなる。</p> <p>&lt;場面1の開始状況について&gt;</p> <p>● 守備 主審・塁審 ● ランナー</p> <p>30～35mゾーン</p> <p>※ 赤線を直接越えたらアウトとする</p> <p>打者4名</p>	<p>※ 攻撃前のグループ活動で、自分の技能に応じた攻撃を考えさせ、作戦としてチーム内で確認させる。</p> <p style="text-align: right;"><b>研究の視点3</b></p> <p>○ 仲間同士の動きを見ながら、指示やアドバイスを積極的に行わせる。</p> <p>○ よりよい攻撃を意識させるためにも積極的にアドバイスを行わせる。</p> <p>○ グループを巡回し、賞賛・激励を行う。</p> <p>※ 設定された攻撃側の状況に応じて、得点につながる攻撃方法を教え合ったり、確認し合ったりすることで作戦が成り立つよう声かけをする。</p> <p>&lt;攻撃側状況判断の視点&gt;</p> <p>1. ランナーをためる。(四球、セーフバント、ヒット等)</p> <p>2. ランナーを進塁させる。(1・2塁間へのゴロ、送りバント、バッテリミス等)</p> <p>3. 点数をとる。(長短打による進塁、バッテリミス等)</p> <p>◎ 技能の段階に応じて相手との攻防や攻撃の場面に合った作戦を立てて、実践しようとしていたか。(思考・判断)</p> <p>○ 攻撃側の作戦が上手くいくよう声かけをする。</p> <p>○ 教師が発問をする。 「得点を獲得するために何が必要か？」 「ほかにより方法はないか？」</p> <p>○ 教師が発問をする。 「なぜ、そう思ったのか？」(根拠の確認)</p> <p>◎ 審判等の役割を理解し、積極的に参加して貢献しようとしているか。(関心・意欲・態度)</p>
	7分	一斉 グループ	<p>7 整理運動をする。</p> <p>8 本時を振り返り、評価反省をする。</p> <p>9 次時の学習内容を確認する。</p> <p>10 健康観察、あいさつをする。</p>	<p>○ 入念に整理運動をさせる。</p> <p>○ 本時のねらいを再度確認し、本時の学習を振り返らせる。</p> <p>○ 生徒の体調を把握し、後片づけをさせる。</p>